

各部会での令和2年度検討報告並びに令和3年度の検討テーマ一覧

資料1

| 部会           | R2年度 検討内容            |   |   | R3年度 検討内容        |  |             |
|--------------|----------------------|---|---|------------------|--|-------------|
|              | R2年度検討テーマ            | 検討内容、結果・方向性   | 検討回数・方法   | 検討テーマ            | 理由   | 協力してもらいたい部会 |
| 病院部会         | 緊急時の受け入れについて         | 毎年開催されている多職種ワークショップは病院、在宅の各専門職が意見交換できる研修会である。また病院部会としては研修会を通して病院の役割を啓発していく貴重な研修会であるが、今年度はコロナ禍の中、中止となった。「緊急時の受け入れ」については、どのような状況においても継続して検討が必要である。コロナの状況も見ながら、引き続き検討していく。また研修会については、今後の状況を見ながら企画していく。   |   | 緊急時の受け入れについて(継続) | 今年度はコロナウイルスにより、発熱がある場合のトリアージやコロナウイルス陽性患者発生時の搬送など、緊急時の受け入れの際にも影響があった。また現在は、コロナウイルス患者が回復後、後遺症や持病等で退院ができずに、病床が逼迫するといったことも起きており、後方支援をどのように行っていくかも課題となっている。そのような状況を踏まえて引き続き、重要課題のため、検討していくこととする。  |             |
| 医師会部会        | 在宅医療の充実に向けて          | 在宅医療の充実に向けて、在宅医療に携わる医師の負担軽減のため、昨年度、在宅看取り時の協力体制を構築した。昨年度末に会議を招集し、実績の検証とシステムの改善のための検討を行い、一部の内容について見直しを行ったが、コロナ禍によりニーズが減少した。<br><br>制度の見直し後、コロナ禍もあり稼働実績はなかった。今後も必要に応じて、検証を行う。  | 会議 1回<br>参加人数 延べ10人                               | 在宅医療の充実に向けて      | 引き続き、このテーマに取り組む必要があると考えるため   |             |
| 歯科医師会部会      | 多職種連携を円滑に行うためにはどうするか | 講習会の内容<br><br>中断により、次年度に持ち越し。   | 会議 2回<br>参加人数 延べ 26人<br>4, 5月のみ<br>COVID19により、中断。 | 多職種連携            | 令和2年度、中断してしまった事項を再度検討しなおす為。  |             |
| 薬剤師部会        | 在宅における麻薬の取り扱い        | 回数は減りましたが、会議は実施。しかしながら、在宅麻薬について検討する機会はありませんでした。<br>継続検討テーマ  | 会議 6回<br>参加人数 延べ約240人                             | 医療用麻薬の取り扱い       | 在宅患者訪問における麻薬管理<br>法令・省令に基づく麻薬小売業者間譲渡 他   |             |
| 訪問看護ネットワーク部会 | 医療廃棄物の破棄方法の検討        | 医療廃棄物のパンフレット作成から10年以上経過しており、情報が古く周知徹底されていない現状があった。また、病棟で医療廃棄物の廃棄方法や医療廃棄物に貼るステッカーの指導がされておらず、訪問看護利用者とそうでない場合の廃棄方法が異なっている。老々介護、認々介護世帯が増えており、市民目線で安全かつ分かりやすいマニュアルが必要が必要である。<br>①医療廃棄物のパンフレット見直しについて<br>(1)バルンカテーテル (2)バルンカテーテル以外<br>②ステッカーの取り扱いについて<br>上記をごみゼロ推進課、医師会、在宅医療サポートセンター、訪問ネットで検討した。<br>物品の使用目的や方法、構造と感染リスクの有無について説明した。緊急事態宣言下において2月予定の会議が3月に持ち越しとなっている。<br>検討会議で、令和4年4月からのプラスチック資源一括回収の変更に合わせて見直しをしていくことで合意に至った。パンフレットやリーフレットなどの見直しについては協議を重ねていく。来年度も引き続き訪看ネットの検討課題とする。医療処置方法と管理指導の統一が必要であり、病院部会との連携が必要である。<br>今年度の訪看ネットワーク部会の開催は8回内ZOOMで4回開催。新規加入事業所が2か所あった | 会議 3回、<br>参加人数 延べ10人<br><br>FAX、メール               | 災害医療における多職種連携    | ・コロナも災害と捉えて、訪問看護ステーション間の事業所連携だけでなく、病院、施設、ケアマネジャーとの連携をシステム化して市民の安全で穏やかな暮らしを守りたい。<br>・サルビー見守りネットを活用した情報共有のあり方を検討したい。<br>・医療依存度が高い利用者の水害地震発生時における、非常電源が確保できる避難場所のマッピングをしたい・<br>・事業所と利用者それぞれが災害発生時の行動マニュアルを作成して、迅速に避難できる環境整備をしたい。<br>・コロナ禍において、施設入所や入院すると家族と面会できないため介護と医療が連携して、市民が在宅医療を活用して、自宅で介護支援を受けながら治療を継続して、自分らしく最期まで過ごせる環境を整えたい。 | すべての部会      |

| 部会        | R2年度 検討内容         |   |   | R3年度 検討内容                 |   |             |
|-----------|-------------------|---|---|---------------------------|---|-------------|
|           | R2年度検討テーマ         | 検討内容、結果・方向性   | 検討回数・方法   | 検討テーマ                     | 理由  | 協力してもらいたい部会 |
| リハビリネット部会 | 介護予防に必要なフレイル対策    | <p>後期高齢者における要介護の主因であるフレイルを予防、改善させることは健康寿命を延伸することとして期待されている。しかし、フレイルは身体的虚弱のみならず、精神、心理や社会的要因、疾患、薬剤などのさまざまな要因が複雑に絡み合っており老年症候群の中でも最も対応が必要な状態である。その対応には、医療、介護、保健領域に関わる多職種連携が必須となるものの、フレイルの概念は比較的新しいがゆえ、認知度がまだまだ低く、適切な時期に必要な介入が行われていないのが現状である。また、自立支援サポート会議やアセスメント支援事業の事業開始を踏まえ、実施中に飛び交う「医療」用語と「生活」や「地域」の紐づけ寄与する講演内容を発信することで、フレイルの多面性の理解や職種間の専門性の理解、またこれらの事業の質向上を図れるのではないかと考える。</p> <p>研修会を通して、参加者の98.5%がフレイルの理解度が深まり、参加者の96.9%が今後の活動に活かせると感じる結果であった。また、安城市による「新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う自粛中の生活に関する調査結果」から、高齢者の自粛生活により、フレイルの特徴と類似するような体力低下、筋力の衰え、体重の増加が顕在化している今、ポストコロナ時代の虚弱高齢者の要介護予防が今後、さらに重要視すべき課題と考える。</p>   | 会議 4回<br>参加人数 延べ24人                                     | 人生の最終段階におけるリハビリテーションのこれから | <p>人生の最終段階におけるリハビリテーションの有用性は認められているものの、ターミナル期においては看護・介護の優先順位が高まり、リハ専門職の関わりが少ないのが現状である。</p> <p>人生の最終段階をどう生きるかをリハ専門職としていかに支援するか、リハビリネット部会として年間を通して検討していきたい。</p> <p>他職種間での連携も重要であるが、リハ職種での連携(急性期～在宅)についても改めて検討が必要であると考え。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴いオンラインの活用が加速していることを受けて、人生の最終段階におけるオンラインの活用方法も検討していけると良いと考える。</p> |             |
| ケアマネット部会  | コロナ禍における多職種連携の在り方 | <p>① 新型コロナウイルス感染の影響で定例会の開催ができない中、情報交換のツールとしてサルビー見守りネットを活用していきたいと考えた。できるだけ多くの事業所に参加と登録を呼びかけ、プロジェクトを立ち上げた。(5月)</p> <p>② 今年度初開催の定例会において、事業所での対応や困っていること、またコロナ加算についてデイネット会長を交えて意見交換を行った。(7月)</p> <p>③ サービス担当者会議のオンライン開催について、リハビリネットより提言いただき、部会内の意識調査としてアンケートを実施した(12月)。アンケートを集計し結果をもとに、オンライン開催についての課題を抽出し、研修開催(2月)へ向けての目標設定を行った。</p> <p>サルビー見守りネットプロジェクトへの参加者は72名にとどまっており、まだまだ十分には浸透していない。</p> <p>オンラインの活用については、必要性は感じているものの苦手意識があり、積極的な導入には二の足を踏んでいる事業所が多い。</p> <p>サービスの変更時など利用者の状況変化を見逃すことなく的確に情報収集を行う必要がある。多職種間での情報共有を図っていくためには担当者会議は必須であるが、集まることでの密を避けるなければならない。オンライン担当者会議の実用化を目指すためには、他部会の協力を得ながら段階的に研修を実施していくことが望ましい。</p> <p>今年度の定例会は7月、10月、11月、2月、3月(予定)の計5回、参加人数も事業所1名と縮小しての開催となった。</p> <p>予定していた研修も軒並み中止となり、介護支援専門員としての業務の取り扱いも通常とは大きく変わった一年だった。</p> | 会議 1回<br>参加人数 延べ 33人<br><br>その他( オンライン担当者会議アンケート 113名 ) | 看取り期における多職種連携             | <p>・コロナ禍においては、病院や施設等の面会制限などで退院前カンファレンスやサービス担当者会議等の開催が難しい場合もある。</p> <p>・在宅での看取り体制を整え、切れ目のない在宅看取りの支援を行う上で、多職種連携は欠かせない。</p> <p>・ACPなど意思決定支援における多職種間の情報共有の取り組みを考えていく必要がある。</p>  | すべての部会      |

| 部会        | R2年度 検討内容  |   |  | R3年度 検討内容                                   |   |                 |
|-----------|--|---|--|---|---|-----------------|
|           | R2年度検討テーマ  | 検討内容、結果・方向性   | 検討回数・方法  | 検討テーマ                                       | 理由  | 協力してもらいたい部会     |
| 小規模多機能部会  | ①小規模多機能ホームの役割と活用方法について<br>②各施設の特徴をお互いに理解する         | 部会主催の研修会は、事例を通して小規模を知っていただく機会となるが、新型コロナウイルス感染症対策にて今年度は中止することとなった。<br>・各小規模の運営や他機関、地域との連携に関する情報共有を行い、日頃の支援に活かせるようになった。<br>・部会の会議を通して困難事例の相談など行えているので困ったときの相談しやすくなった。   | 会議 5回<br>参加人数延べ6人<br>(小規模多機能部会会議)                | 小規模多機能ホームの役割、活用方法について事例を通して地域の現状を考える。       | 小規模、看多機の役割や機能がわかりにくいので、引き続き周知に努めていく。研修会を中心に広く知ってもらうための取り組みを検討する。  |                 |
| デイネット部会   | 通所系サービスが「感染予防」を通じて必要とされる地域資源になり、利用者が安心・安全に通えて健康を守る | 年度当初は検討テーマでもある感染予防を軸に通所系サービスを継続的に利用するための基礎知識とその対策を共有することを目指した。これにより利用者が安全・安心して活用できる地域資源としてとして将来的には安城市が取り組んでいる看取りへの貢献することが目的であった。しかし年度初めからはコロナの影響により4月に開催を見合わせ、6月は時短での開催となったがコロナの影響と対応などで意見交換を実施した。また10月ではコロナ対策事業費補助金の説明と物品などの不足に対する意見交換を実施した。その後、11月開催を予定していた「介護現場での人材教育・育成について」の研修会はコロナの影響により中止となり12月には安城市見取りWGの進捗状況を報告した後にGWにて「看取り事例の検討」を実施した。このことで得られた意見を集約して安城市見取りWGの部会として提言していく予定である。今回の検討テーマでもある感染予防に対しては厚労省がオンライン研修会を実施しており安城市が推奨していたためこちらを活用することにした。<br><br>今年度は研修会が未実施であり、部会自体も感染対策のためGWなどは極力自粛した。しかしコロナ騒動で各施設の悩みや不安を共有し1年間乗り越えれたのは1つの成果と考える。また参加施設は例年より減少傾向であったが今年度より会費の無料化とコロナにより運営不安により新規事業者もあったことからサルビー見守りネットを活用し部会の連携を強化し通所系サービスが地域に根ざした資源になれるよう今後も活動してゆきたいです。<br><br>今後は看取り研修の企画を検討している。 | 会議 4回<br>参加人数 延べ 113人<br><br>その他( 西庁舎2階 第42会議室 ) | 「本人が望む場所で、自分らしく最期まで今を生きる」ため通所系サービス事業所が出来ること | 安城市として推進していく「看取り体制:本人が望む場所で、自分らしく最期まで今を生きる」場所がご自宅であった場合、在宅サービスの私ども「通所系サービス」のご利用も視野に入ると思われるが、「看取り体制」に対しての考え方の相違や、不安などがあると思われる。<br>部会を通じて、「自分らしく最期まで今を生きる」ことができるように理念を理解し、体制を整備できるようにグループワークなどを通じて、情報共有をしていきたい。 | 訪問看護部会、ケアマネット部会 |
| ヘルパーネット部会 | 訪問介護から見える利用者様の状況を分かりやすく連携するための報告力と観察力を学ぶ           | サービスを通して、利用者様の心身の状態を把握し、日常生活がよりよく送ることができるような対応の方法を考える。<br>コロナ禍のため開催予定6回が半分の3回のみで開催となり、検討テーマを話すことが出来なかった。検討テーマとしては重要な課題である為次年度へ持ち越しをして引き続き学びたい。  | 会議3回<br>参加人数 延べ30人                               | 未定  |   |                 |
| 施設部会      | ① 施設間での情報共有・連携強化<br>② 介護職員の人材育成や人材確保               | ○ 今年度は、新型コロナウイルスにより、各施設が感染対策に苦勞しながらも、サービスの継続が行えるよう取り組んできた。部会においては、新型コロナウイルスにおける感染対策の現状報告と今後の方針等の情報共有を行った。<br><br>○『福祉施設現場でのハラスメント』について、講師の早川先生を招いて研修会を開催した。今後、現場で活用できるようにハラスメントについて理解を深めた。<br><br>各施設での新型コロナウイルスにおける感染対策の現状報告あるいは今後の方針等を話し合うことで、対応についてある程度の足並みを揃えることが出来た。<br>今後も、引き続き感染対策を継続して施設間での連携強化を図っていきたい。  | 会議 6回<br>参加人数 延べ 90人                             | ①施設間での情報共有・連携強化<br>②感染対策の現状と今後              | ○施設間での情報共有や連携を図ることで、お互いの施設が相談する機会を持つ事ができ、市内全体の施設運営の底上げに繋がっていく。<br><br>○感染対策について施設間での情報共有を図り、安定した施設運営や施設サービスが行えるよう各施設が協働し相乗していけるよう連携していきたい。  |                 |

| 部会        | R2年度 検討内容   |   |  | R3年度 検討内容  |  |             |
|-----------|---|---|--|--|--|-------------|
|           | R2年度検討テーマ   | 検討内容、結果・方向性   | 検討回数・方法                                  | 検討テーマ  | 理由   | 協力してもらいたい部会 |
| グループホーム部会 | 1.地域の認知症の方をサポートする支援の取り組みについて<br>2. 各グループホームで困っていることについて | 1. 来年度の福祉まつりに今まで通りグループホームの紹介と相談コーナーに加えて、どこかの教室を時間限定で借りて認知症のミニ講座を開催する。<br>2. コロナ禍でご家族との面会についてや消毒等の備品の確保について、職員がコロナ陽性者になった時の対応について等意見交換をしました。<br><br>結果・方向性<br>1. グループホームとして、地域の認知症の方や家族に多くの情報を発信しできるようにする。<br>2. 部会を通して、グループホーム同士の繋がりができお互いの悩みを共有し解決ができる。  | 会議3回 延べ30人                               | 本人、家族それぞれの思いを把握しお互いの思いが尊重されるような看取りとなるために、業務や事例を通して考える。 | 看取りを考えていく中で、本人、家族の気持ちをどのようなタイミングや方法で聴き取り対応しているかを部会内で共有し、より良い方法を検討することで、看取りに関する本人、家族の意向の共有を適切に支援できるようにしたい。  |             |
| 保健福祉部会    | 自立支援について(介護予防を含む)                                       | ・コロナ禍アンケートによる各地区福祉センター利用者の実態把握と課題整理<br>・サポート会議への参加及び事例提供を通した多職種連携で臨む自立支援の進め方（参加を通じた部会内での意見感想の共有）<br><br>・身体、認知機能低下に対する早期のフォロー及び予防の取り組みの必要性を確認し、各地区での取り組みに反映する。<br>・高齢者住民に対してのパソコン、スマホを活用した取り組みができる可能性が確認でき、各地区の事業での活用を模索する。<br>・多職種で臨むサポート会議が有意義であることは共有できたが、当事者の自立支援に向けてサポート会議で課題になる事項についての課題の整理ができていない。 | 会議7回<br>参加人数 延べ150人<br>電話、メール、サルビー見守りネット | ○自立支援について。<br>・R2年度自立支援サポート会議からの課題整理と課題解決のための実践。       | ○サポート会議からの課題整理の取組<br>・当事者の自立支援にあたり、多職種が取り組むべき課題を整理し、各自の取組に繋げる。<br>・「自立支援とは」を改めて共有し、各専門職の関わり方などについて繰り返し認識できるようにする。<br>・より効果的な会議とするために、部会において自立支援サポート会議の振り返りを行う。 | リハネット部会との協力 |

| 部会 | R2年度 検討内容 |             |         | R3年度 検討内容 |    |             |
|----|-----------|-------------|---------|-----------|----|-------------|
|    | R2年度検討テーマ | 検討内容、結果・方向性 | 検討回数・方法 | 検討テーマ     | 理由 | 協力してもらいたい部会 |